

国内外コミュニティの状況(今日の学術的潮流・動向など)

国際連携



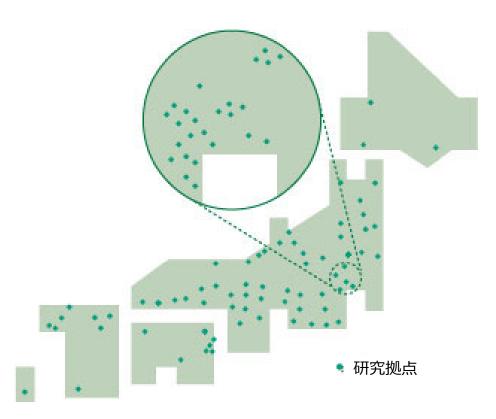
SINETを利用する国内コミュニティ



- ・日本全国の900機関、300万人の研究者等が利用
- ・様々な分野の研究コミュニティがSINETを活用して研究・教育を推進

加入機関数



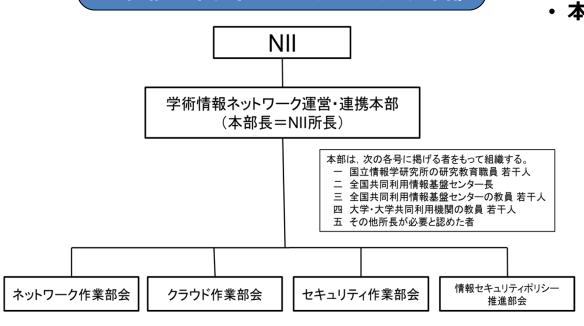


SINET活用事例集(冊子) に掲載された研究拠点

常にステークホルダからのご意見を頂く体制



- ・文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会において「学術情報基盤の在り 方」に関して多面的かつ包括的な検討・評価を実施
- ・様々な研究分野の委員で構成される「学術情報ネットワーク運営・連携本部」等で合意を得ながらSINETの高度化計画を策定
- ・これらの計画に沿って、国立情報学研究所が実施主体として一元的に整備



学術情報ネットワーク運営・連携本部

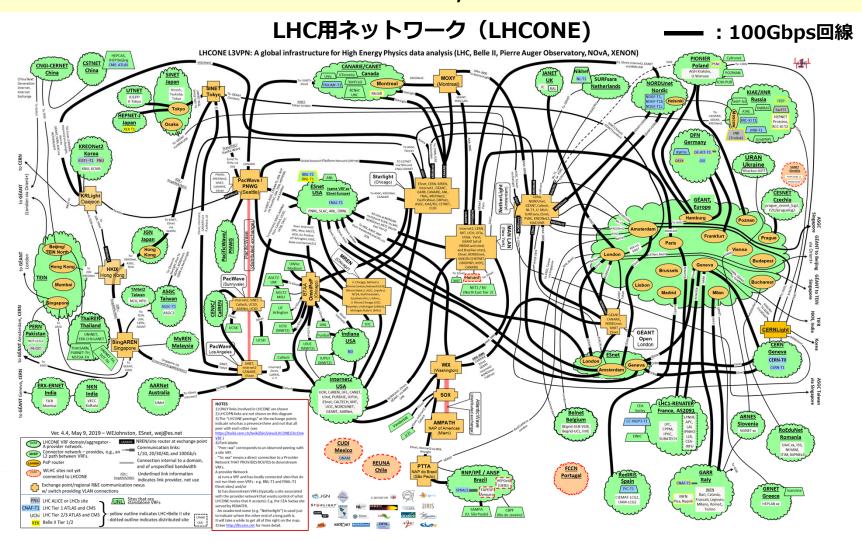
・本部委員の所属(2019年度)

ステークホルダ間での調整を経つつ、一元的に整備することにより、効率的な投資、適切な資源配分、サービスレベルの維持が可能となる

国際コミュニティ例: LHC ATLAS



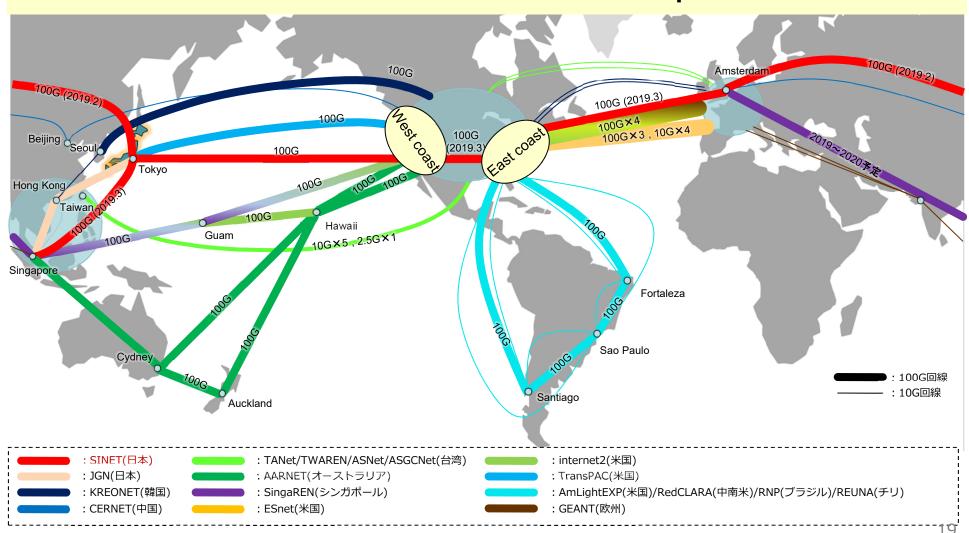
- ・LHC ATLASでは、研究データが世界各国のストレージに分散蓄積されているため、研究遂行のために、超高速のグローバルなネットワークが必須
 - ・国内16機関、海外38か国181機関の約3,000名の研究者が参加



100Gbps国際回線の整備が急進



- ・ この2~3年の間に100Gbps国際回線の整備が急速に進み、南米含めて世界主要 国が100Gbpsで接続されてきている
 - 南アフリカにもイギリスの投資により間もなく100Gbps回線が接続予定



ネットワークの国際協力・連携体制



- ・ユーザコミュニティの国際連携を支えるために、海外学術ネットワークと連携 し、ネットワークの相互接続や国際回線のバックアップ等について調整を実施
 - ・米国のInternet2 Meeting、欧州のTNC Meeting、アジアのAPAN Meetingで実施
 - ・主要な海外学術ネットワークのCEOが集まるGlobal NREN CEO Forumにも参加
- ・欧州のGÉANTとは、サービス開発(ネットワーク、高速ファイル転送、クラウド等)に関してMoUを締結し、年数回会議(VC含む)を実施

Memorandum of Understanding

between

Internet2, NORDUnet, SURFnet, CANARIE, GÉANT

and

SINET operated by NII

This Memorandum of Understanding ("MOU"), dated March 7, 2019 ("Effective Date"), between:

- the University Corporation for Advanced Internet Development (d/b/a "Internet2"), 1150 18th Street, N. W., Suite 900, Washington, D.C., 20036, USA; and
- . NORDUnet A/S, Kastruplundgade 22, 2770 Kastrup, Denmark; and
- . SURFnet bv, Moreelsepark 48, 3511 EP Utrecht, The Netherlands; and
- CANARIE Inc., 45 O'Connor St., Suite 500, Ottawa, ON, KIP 1A4, Canada; and
- GÉANT Association, Hoekenrode 3, 1102 BR Amsterdam, The Netherlands; and
- National Institute of Informatics ("NII"), 2-1-2 Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8430, Japan, as operator of the Science Information Network ("SINET").











SINETが拓く学術

